



あかずの門と

上人塚



法善寺のあかずの門



法善寺の南にある上人塚



法善寺の石碑

地区	★曹洞宗	★日蓮宗	高野山真言宗	★臨濟宗妙心寺派	★浄土宗	真言宗智山派	真言宗醍醐派	単立その他	合計
八田	6	0	0	0	0	1	0	0	7
白根	14	8	0	0	0	0	0	1	23
芦安	2	1	0	0	0	0	0	0	3
若草	4	11	3	0	0	0	0	0	18
櫛形	20	16	0	0	1	0	0	0	37
甲西	12	21	4	2	1	0	1	1	42
合計	58	57	7	2	2	1	1	2	130
割合 (%)	44.62	43.85	5.38	1.54	1.54	0.77	0.77	1.54	100

南アルプス市の宗派別の寺院数 (山梨県宗教法人名簿 令和2年11月1日現在より)
★印は、鎌倉時代以降に生まれた宗派。 なお、割合は、端数を四捨五入してある。



教を守り続けた歴史を伝えるエピソードの象徴として現在ものこされています。
ちなみに、法善寺の南、約四百メートル程の所には、日蓮聖人が法善寺を説得するために、庵を建てて滞在した場所として、現在も「上人塚」と呼ばれる場所がのこされていて、伝説を今に伝えています。

文/写真 文化財課

このエピソードは、あくまで伝説であり、もちろん今の門そのものも、当時のものではなく、後に造られたものですが、自らの宗教を守り続けた歴史を伝えるエピソードの象徴として現在ものこされています。

ちなみに、法善寺の南、約四百メートル程の所には、日蓮聖人が法善寺を説得するために、庵を建てて滞在した場所として、現在も「上人塚」と呼ばれる場所がのこされていて、伝説を今に伝えています。

先月に引き続き、若草地区加賀美の法善寺にまつわるお話です。
法善寺の境内、先月で紹介したサルスベリの程近くに、「あかずの門」とよばれる門があります。この門は、いつも閉じられていて、普段は開かれることがないそうです。その理由として、お寺には、あるエピソードがのこされています。
言い伝えによれば、鎌倉時代に日蓮聖人が法善寺にやって来て、自らの教えに改宗するように住職に説得を試みたのですが、その当時の住職は門を固く閉ざし、話を聞くとはしませんでした。そこで聖人は、お寺の近くに庵をつくり、そこから毎日、寺に通いました。しかし、住職は、やはり何回来てもしめて門を開けず、話も聞かなかったため、ついに聖人はあきらめて、他所へいつてしまったのだそうです。
実際、この頃、付近の寺院の多くが、日蓮聖人のひらいた日蓮宗や、道元禅師の曹洞宗に改宗してしまい、現在南アルプス市にあるお寺の、実に九十一・五五パーセントが、臨濟宗や浄土宗なども含む鎌倉時代以降に生まれた宗派のお寺に占められています。その中で、法善寺がそれ以前からある、高野山真言宗として残ったこと、またはこの門が本来、偉い人が来た時だけ開かれる勅使門であって、普段開いたことがなかったことから、このような伝説が生まれたと考えられます。